

2019 後期授業アンケート「学習状況用」結果概要

教学 IR 室

■ 本アンケートの位置づけ

- ・ 2019 年度より、「授業評価アンケート」は「授業アンケート」とし、「学習状況用」と「授業実践用」の二種類となった。
- ・ 「学習状況用」は科目レベルの教育改善の証拠（エビデンス）とするためのものであり、全ての科目（非常勤講師担当科目も含む）で、コースの中間地点で実施するものである。
- ・ 当該科目における「学習で困難に感じていること」「目標を達成するための今後の学習」「授業時間外学習の程度」などを、量的・質的に捉えたいと、各科目担当教員がそれぞれの判断をもって、その期における授業の改善や、学生との対話を目指して構成されたものである。学生の価値判断からその授業の良し悪しを議論するためのものではない。
- ・ シラバスを学生が再確認し、学生の状況を形成的に評価するものであるため、適切に実施されており、それに教員が対応していれば、科目レベルの教育改善 PDCA の有力なエビデンスとなる。補助金の項目や認証評価を考慮すると、ティーチング・ポートフォリオ（自らの教育活動について振り返って記述された本文とこれらの記述を裏づけたエビデンスから構成される教育業績についての厳選された記録）の作成が今後必要になるかもしれないことを想定している。
- ・ 本アンケートは、中間地点の平均的な結果よりも、これをもとにどのように各教員が対応したのかが重要になる。ただし、回答率や学習時間に関しては、本報告の平均的なデータからその多寡をもとに議論することは有益ではなかろうか。

■ 設問内容

1. 学籍番号
2. 氏名
(量的項目) ※1→全く当てはまらない：6→非常によく当てはまる<6 件法>
3. この授業の目標を達成するために自分が取り組まなければならないことをよくわかっている
4. この授業が何に役立つのかをよくわかっている
5. この授業の内容は今のところしっかり理解できていると思う
6. この授業中の活動に集中して取り組んでいる
7. この授業の内容を理解するために授業時間外にも関連する学習をしている
8. この授業で学んでいる内容をさらに深く学びたいと考えている
9. この授業で 1 回あたりどのくらいの時間の予習をしましたか
※1→0 分、2→30 分未満、3→30～60 分、4→60～90 分、5→90 分以上
10. この授業で 1 回あたりどのくらいの時間の復習をしましたか
※1→0 分、2→30 分未満、3→30～60 分、4→60～90 分、5→90 分以上
(以下質的項目)
11. これまでこの科目の学習に関して、内容的な理解の面で困難を感じていることはありますか
12. これまでこの科目の学習に関して、内容的な理解以外の、環境的な困難はありましたか
13. これまでこの科目の目標を達成するために、どのような学習をしてきましたか
14. これまでこの科目について、どのような事前・事後学習（予習や復習、課題、追加学習など）を行ってきましたか

■ 量的項目の科目種・学科別平均値

科目種等	対象学科	回答率	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	全体 平均
基礎科目	全学科	30.4%	4.09	4.09	3.85	4.11	2.81	3.52	1.32	1.55	3.17
専門基礎科目・専門科目	看護学科	39.0%	4.60	4.78	4.20	4.53	3.41	4.19	1.72	2.08	3.69
	理学療法学科	51.0%	4.73	4.88	4.21	4.65	3.77	4.39	1.65	2.28	3.82
	作業療法学科	23.0%	4.72	4.95	4.29	4.76	3.72	4.40	1.68	1.99	3.81
	臨床工学科	43.3%	4.38	4.46	3.78	4.15	3.43	3.76	1.55	2.06	3.44
	複数学科	44.2%	4.33	4.45	3.71	4.02	3.48	3.90	1.38	1.96	3.40
	全学科合計	41.2%	4.58	4.73	4.08	4.46	3.55	4.15	1.61	2.11	3.66
大学院の科目	全学科	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-

■ 質的項目において、改善が可能と考えられる例

- ・ 位置づけで述べたように、各担当教員が学生の状況を把握しながら、対応を考えるものであるため、一概にこのような対策が有効であるとはいえない。しかしもし、担当教員が学生の声をひろって、対応がしたくてもそれが難しいようなものがあれば、それをFD委員会等で共有し、対応策などを話し合えば、実質的な科目レベルのFDのエビデンスとなり得るだろう。
- ・ 以下のものは、「設問 11. これまでこの科目の学習に関して、内容的な理解の面で困難を感じていることはありますか」に対する学生の記述の全体的な傾向と、それへの対応策に関する教学IR室のコメントである。参考までに提示したい。
 - 全体的に、「○○の部分があった」、など具体的な概念や事項の記述が多かった。もし科目後半でそのような概念や事項が重要なものとなるのであれば、補足資料を配布したり（LMSの活用）、時間が許せば、再説明を試みたりするなどの対応が考えられよう。
 - ◇ 「覚えることが多すぎて覚え切れていない」→2020年度よりLMSのmanabaが導入された。manabaの小テスト機能を使った予習復習や、コースコンテンツへの解説動画のアップロードなどを行うことで、知識の獲得や定着、深い理解を促せるかもしれない。
 - ◇ 「この授業が何に役立つか理解出来ていない」→2019年10月に行われたFDSD研修会により、シラバスの改善が行われたが、そこに明記した教育目標が学生に伝わっていないこともある。また、教員としては最終的な目標に向かって授業を組み立てるが、課題に必死な学生にはそれが見えなくなることも少なくないだろう。学生に教育目標や個々の課題の目的を伝えるなど、目的意識を伴った学習にする配慮が必要かもしれない。
 - ◇ 「全体的にあまり理解できませんでした」→そのような学生は一定数いると想定されるため、一人ひとり対応は困難である場合も多い。また、本人の授業時間中の取り組み方や予習・復習にも依存するだろう。そこで全体に向けて、科目担当が必要と考える授業内・授業外の学習方法などを具体的に提示するなどの対策が考えられよう。なお、そのような学習方法を考えるきっかけとするため、設問13・14がある。